

生保内地域運営体の活動紹介

発行：平成28年12月

生保内地域運営体は、37の町内会と8つの各種団体で構成され、元気で住みよい地域づくりのため、いろいろな活動を行っています。
平成28年度の主な事業をご紹介します。



第6回生保内地区「長寿を祝う会」を開催しました



【運営体活動7年目を迎えて】

師走を迎えて寒さが厳しい季節になりましたが、皆さまには風邪など引かずに元気で過ごしてはいかがでしょうか。

さて、平成22年度に設立した生保内地域運営体は、地域の皆さま方のご協力を得て7年目の事業に取り組んでいます。これまで、生保内地域が抱える課題の解決や地域振興を図るために、福祉や安心安全対策、産業育成などの事業を進めてきました。

今年もまた、熊本地震はじめ様々な災害が各地で起こり、長期間の停電や断水などで多くの人々が大変苦勞している姿をテレビなどで見るにつけ、他人事ではなくなってきています。そこで、こうした自然災害に備えるため生保内地域運営体では、防災対策事業の一環として町内会への発電機の貸与を行ってきました。それぞれの町内会では、普段から点検などを行い有事に備えるなど常に防災意識を高めております。しかし最後は、ご近所同士の助け合い、人々の「チカラ」が一番の頼りです。

これからも生保内地域内の課題を少しでも解決できるよう、安心して暮らせるよう、会員一同取り組んでいきますので皆さまのご支援・ご協力をお願い申し上げます。



生保内地域運営体
会長 佐藤善昭

第1回 田沢湖歴史再発見塾 開講！



7月31日、「田沢湖歴史再発見塾」が石神会館で開講しました。この塾は、ふるさと田沢湖の歴史を学び、ふるさと田沢湖の良さを再発見し、自分たちの地域に誇りと自信を持てる大人や子どもたちを創ることを目的にスタートしました。

初めての塾でしたが、市内から子どもから高齢者までの32名が参加し、主に石神疎水の祖：田口三之助翁について学びました。田沢疎水跡や三之助翁の石碑を実際に訪れるなど、頭だけでなく体を使って学ぶことがこの塾の特徴。塾の最後には、石神地区の子どもたちが舞い（石神番楽）を披露してくれて、塾参加者から大きな拍手が送られました。



◇生保内小学校とのコラボ事業◇



昨年からはまった運営体と生保内小学校とのコラボ事業は、大人と子どもの地域密着型の世代間交流により、あんべいいなチャーハンや山の芋鍋等の地産品の販売を通して、子どもたちが販売活動等による商業の勉強や郷土愛を育み、健やかな成長が期待される事業です。

今年も、生保内節全国大会や秋田市アゴラ広場で「ふるさとPR隊」が元気よく地場産品の販売活動し、多くの人に喜んでもらいました。これからも出来るだけ長く継続していきたいと考えています。



◇武蔵野のイルミネーションが増飾！◇

多くの皆さんに親しまれている生保内公園の誘客促進を図るため、昨年度から「つつじ祭り」期間中にイルミネーションを点灯したところ、夜の公園を訪れた人々からは大変好評をいただきました。

そこで今年は、ライトの数・種類を増やして、つつじ祭り期間（5月28日～6月5日）だけでなく、クリスマス時期にも武蔵野会館を彩られるなど、楽しい地域づくりに活用します。どうか、光のページェントを楽しみに来てください。



◇高野分校の跡地に石碑建立◇



皆さんは、その昔、田沢湖高原に小学校があったことをご存知ですか。学校の場所は、高原に向かって右側で、東北芝浦電子工場の上方です。

生保内小学校高野分校は、昭和26年11月1日に開校し昭和45年3月31日に廃止されるまでの19年間、高野地区の子どもたちの教育を担いました。

この高野地域の教育文化を親から子、子から孫へと後世に伝え残すため、生保内小学校旧高野分校の歴史文化継承事業として、跡地に石碑を建立しました。石碑には高野分校歌も刻まれています。皆さん、ぜひ見に来てください。



当時の授業風景

生保内地域は、四季折々の美しさを持つ自然に囲まれ、全国から多くの観光客が訪れます。

また、古くから秋田と岩手(南部)を結ぶ重要な脇街道の宿場町として、郷土の文化や歴史など、様々な交流が盛んな場所でもあります。(今年は、田沢湖線が盛岡まで延伸して50年の節目を迎えました)

これからも、地域の特色を活かし、地域の方々が笑顔になるような事業を展開していきたいと考えていますので、皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。